

わが青春の1枚



1976年、烏帽子群礁にて（右）



「晴耕雨読で半世紀」

株式会社構造計画 代表取締役

中勝 篤司

私は、父親が満州の大学の建築科を卒業していたこともあって大学は建築に進みました。新宿校舎は今でこそ超高層ビル群の中にありますが当時は、まだ淀橋の浄水場の名残がありました。超高層ビルが脚光を浴び始めた頃で、しばらくして京王プラザホテルの建設が始まりました。

先日、2020年の東京五輪のメイン会場となる新国立競技場の開閉式屋根の設置が五輪後になると発表されました。1964年の東京五輪当時は熱気が凄く、競技施設、首都高速等を突貫工事で完成させています。

JR原宿駅を降りると、山手線の向こうに国立代々木競技場の第一体育館が見えます。左奥にマストの第二体育館を従えたその姿は地面に四股を踏みしめるように悠然と堂々たるものです。この二つの体育館は傑出した二人の大家、建築家・丹下健三と構造家・坪井善勝の作品です。

若き日に技術と芸術の融合とも言える、この体育館に感銘を受けて以来いまだに一つの目標であり続けています。

大学を卒業して25年間は、新築建物の構造設計を手掛けていましたが、平成7年の阪神・淡路大震災が技術者として大きな転機となりました。

耐震工学は経験工学の側面もあり地震の度に

新しいことが判明し法改正が行われ、建物所有者は何も知らされず突然発生した地震に日常生活を奪われてしまう事になります。

この体験を境に、私は既存建物を最新の知見で再検証を行い、安全性を担保し直す仕事に取り組み始めました。

就職して仕事にも慣れた頃に始めたのが「魚釣り」です。

日本海側は雪解け水が大量に流れ込み海水の塩分濃度が薄く、干満の差も30cmと小さく潮の流れが緩やかなため磯釣りは黒鯛が主となりますが、太平洋側は海水の塩分濃度が濃いため魚種はグレ（メジナ）が主となります。

湘南では茅ヶ崎港から渡船で烏帽子群礁へ渡れます。

小さな島が点在するため、その日の潮廻りを読み渡る島を決めるといふ富山では味わえない楽しさがあります。

夏は夕御飯を食べ終わると富山港に出掛けます。星空を照らす赤灯・白灯の光と、暗い海面に揺れる赤い電気ウキの明かりが幻想的な気持ちにさせます。

私は富山・東京・大阪での生活を続けてきましたが、豊富な自然の恵みと地の利の良さで、富山は生活にも仕事にも最高の場所だと思っています。